

今回AMDAより派遣され、5月8日-6月12日迄難民キャンプで活動した。以下、現状、活動の内容、健康状態、問題点について報告する。

1 現状について

6月7日現在、難民数は26万8134人で、この時点での一日難民流入数は約200人だった。当初5月15日から始まる予定だった自主帰還は中止となり、その後の両国間の交渉は難航している。難民たちも彼らの人権と自由が確保されないかぎり戻らないといっている。当分の間この問題はつづくものと思われる。

キャンプは13にわかれ、コックスバザールからテクナフ迄の地域約60kmのあいだに散在している。うち9万33人にはshelterがなく、DUMDUMIAやGUNDUMなどの大きいキャンプではトイレや井戸も不十分である。

各キャンプには政府から派遣された役人が勤めるoffice、保健省管轄のclinic、3-4のNGOがあり共同して救援にあたっている。

2 我々の活動について

4月25日より寄生虫駆除と衛生教育のプロジェクトがはじまった。

寄生虫駆除は、levamisolにliquid paraffinをへいようするもので、single doseとした。

衛生教育のほうはわたしがついた時点で行なわれていなかったため、徐々に準備をすすめて、大型の絵を使いながら寄生虫の生活史、水、トイレについてlectureをするという方式をとった。内容についてはまだまだ改善の余地があると思われる。

コックスバザールにもっともちかいDhoapalongを第一の対象として選び、6月から12才までのこども6000人強をtargetとした。5月30日までに5367人をカバーしこのキャンプでの活動を終了した。6月2日よりDechuapalongにて活動を再開したが、もろもろの事情を検討し今度は家族全員を対象とすることにした。8日までに846人を診た。

この間感染症などの疾病に気付いた際は、近くのclinicに紹介した。

3 健康状態について

コレラなどのepidemic diseaseが流行するような事態にはなつていなかったが、後述するように貧血、皮膚病、栄養不良症、下痢性疾患などがおおくみられた。

死因としては、これも後述するように栄養不良症、下痢性疾患、呼吸器感染症によるものが多かった。

雨季が本格化すると、現状では相当数の死者がでる可能性があると思われる。

<調査1>

子供254人中みられた疾患は以下のとうり（3人のDrで実施）

貧血	: 99	水とう	: 1
皮膚病	: 33	臍ヘルニア	: 1
栄養不良症（高度のみ）	: 16	中耳炎	: 1
下痢性疾患	: 8	血尿	: 1
結膜炎	: 5	黄疸	: 1
水頭症	: 1	涙のう炎	: 1

<調査2>

6月2日時点で政府に報告があった死因の内わけは以下のとうり（計991人）

栄養不良症	: 339	呼吸器感染症	: 117
下痢性疾患	: 202	老衰	: 52
心疾患	: 32	その他	: 237
痙攣	: 12		

4 活動の評価について

1) 寄生虫駆除

駆虫薬投与後8-9日目に、254人のこどもを対象に調査を実施した。

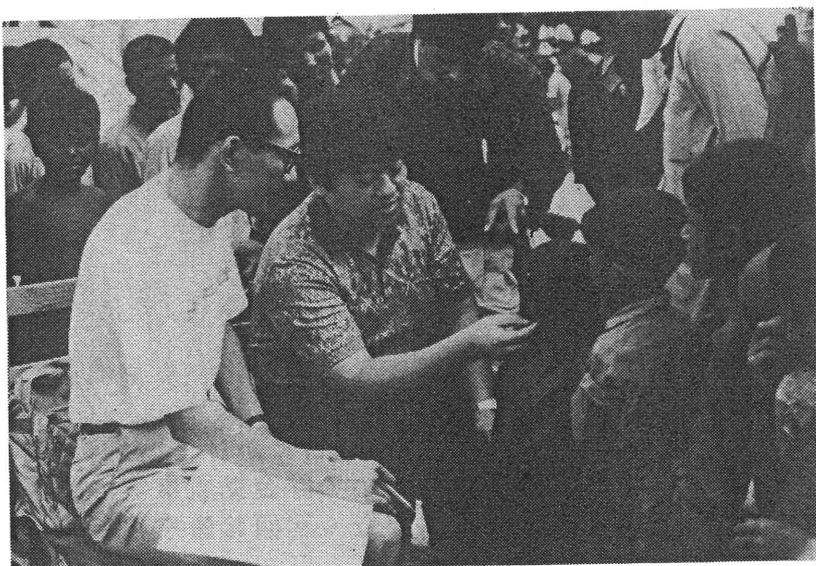
寄生虫が便中に確認されたもの	146人	57.5%
寄生虫を便中に確認できなかったもの	108人	42.5%
投与後便秘があったもの	3人	1.2%

2) 衛生教育について

別紙を参照

5 問題点について

- 1) いつまでやるか
- 2) 人材をいかに確保するか
- 3) 衛生教育の方法について
- 4) 対外活動について
- 5) 待遇について



診療中の長谷川医師（左側）